(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3867287号
(P3867287)
(45)発行日　平成19年1月10日(2007.1.10)　(24)登録日　平成18年10月20日(2006.10.20)

(51)Int.Cl.　F I
B65F 1/16 (2006.01)　B65F 1/16

請求項の数 2　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2001-208588(P2001-208588)
(22)出願日　平成13年6月5日(2001.6.5)
(65)公開番号　特開2002-362704(P2002-362704A)
(43)公開日　平成14年12月18日(2002.12.18)
審査請求日　平成16年12月20日(2004.12.20)

(73)特許権者　300068007
伊藤　洋文
秋田県能代市西通町１６番５号
(73)特許権者　300068018
淺田　嘉美
秋田県能代市景林町８番４２号
(73)特許権者　599048306
渡辺　泰行
秋田県能代市寿域長根１３－９
(72)発明者　伊藤　洋文
秋田県能代市景林町８－４２　社団法人発明協会秋田県支部能代山本分会内

審査官　久保　克彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ごみ収納装置

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

立設された筒状固定枠体と、該固定枠体の両端を橋絡する支持軸と、該支持軸に両端が軸支され、前記固定枠体に対して開閉可能な筒状可動枠体と、前記支持軸に両端が軸支された回動可能な複数の骨材部と、前記可動枠体が前記固定枠体に対して略直角となる位置にて張架し、且つ前記固定枠体と前記可動枠体との間に前記支持軸を軸中心にして前記各骨材部を所定の角度で配置するように覆って取付けたネットとを備え、

前記ネットには、前記固定枠体の中央を構成する基部と前記骨材部との間に、上方に向いて開放された開口孔が形成され、さらに該開口孔を覆う蓋体ネットを設けて、

前記蓋体ネットは、その一端縁を前記基部に取付け、その他端縁に取付けた棒材を自由端として、

前記固定枠体に対して前記可動枠体を開いた際に、前記ネット内の前記固定枠体と前記各骨材部と前記可動枠体とで囲まれた空間内に前記棒材を持ち上げて前記ごみを収納可能とするとともに、前記可動枠体を閉じた際に、前記固定枠体の内方に前記可動枠体および前記各骨材部を配置させて折り畳みされ、前記空間内に置かれた前記ごみを収集可能としたことを特徴とするごみ収納装置。

【請求項２】

立設された筒状固定枠体と、該固定枠体の両端を橋絡する支持軸と、該支持軸に両端が軸支され、前記固定枠体に対して開閉可能な筒状可動枠体と、前記支持軸に両端が軸支された回動可能な複数の骨材部と、前記可動枠体が前記固定枠体に対して略直角となる位置に

て張架し、且つ前記固定枠体と前記可動枠体との間に前記支持軸を軸中心にして前記各骨材部を所定の角度で配置するように覆って取付けたネットとを備え、
前記固定枠体は、中央に設けた基部と、この基部に対して折曲げられた第１、第２の脚部とからなり、
前記ネットには、前記基部と前記骨材部との間に、上方に向いて開放された開口孔が形成され、さらに該開口孔を覆う蓋体ネットを設けて、
前記蓋体ネットの一端縁を前記基部に取付け、その他端縁を自由端として、
前記第１、第２の脚部には、台座部をそれぞれ取付けて使用する場合と、地面に穿設されたガード用穴部に差し込んで使用する場合との両方に使用できるように、前記支持軸を軸支する孔部を少なくとも２つそれぞれ形成してなり、
前記固定枠体に対して前記可動枠体を開いた際に、前記ネット内の前記固定枠体と前記各骨材部と前記可動枠体とで囲まれた空間内にごみを収納可能とするとともに、前記可動枠体を閉じた際に、前記固定枠体の内方に前記可動枠体および前記各骨材部を配置させて折り畳みされ、前記空間内に置かれた前記ごみを収集可能としたことを特徴とするごみ収納装置。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、家庭用または業務用ごみのごみ収納装置に関し、特に所定のごみ集積所に設置されてごみの回収を容易にした折り畳み式のごみ収納装置に関する。

【０００２】

【従来の技術】

一般に、家庭または商店から出されたごみは、決められた収集日に予め指定されたごみ集積所にビニール袋に入れて出される。
その際に、ごみ集積所としては、ごみ収集車がごみを回収しやすいように道路脇等のあらかじめ決められた箇所に設置されるケースが多く、また近年、地方自治体などの指導により、所定の大きさの透明なビニール製のごみ袋にごみを入れるようになってきている。そのため、ごみを出す人は、ごみを小別けした上記ごみ袋に収納して出すようになってきている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、道路脇などのごみ集積所に置かれたごみは、からすや猫などの小動物にごみを荒らされないようにネットをかぶせて、これら小動物からの被害を防いでいる。

【０００４】

しかしながら、地面に置かれたごみ袋は、ネットの内側に必ず置かれるとは限らず、外にはみ出してしまったり、ネットの隙間から露出してしまい、小動物からの被害を受けるおそれがあった。

【０００５】

また、ごみ集積所にごみを出した人は、ごみ袋を一旦地面に降ろして、既に置かれている他のごみ袋を覆っているネットをはずした後、自分のごみ袋をネット内の所定の位置に置かれるようにし、それからネットを被せる必要があり、手間がかかっていた。

【０００６】

また、ごみ収集車にてごみを回収する際にも、ごみ収集業者がごみを出した人と同じように、ネットをごみから寄せる際に、ごみを覆っているネットを巻くなどして他に寄せてから作業しなければならず、このネットがかさばって作業性が悪いという問題があった。

【０００７】

また、ネットが紛失しないように、ごみを収集した後でも、道路脇に沿って配置された電柱に一部を結び付けたままになっており、見た目（景観）が良くないという問題があった。

【０００８】

本発明の目的は、以上の問題点に鑑みてなされたもので、誰でもが簡単にネットの開閉ができ、さらに持ち運びが容易にできるようにした折り畳み式のごみ収納装置を提供することにある。

【０００９】

【課題を解決するための手段】

上記課題の少なくとも１つを解決するための第１の解決手段として、立設された筒状の固定枠体と、該固定枠体の両端を橋絡する支持軸と、該支持軸に両端が軸支され、前記固定枠体に対して開閉可能な筒状の可動枠体と、支持軸に両端が軸支された回動可能な複数の骨材部と、可動枠体が固定枠体に対して略直角となる位置にて張架し、且つ固定枠体と可動枠体との間に支持軸を軸中心にして各骨材部を所定の角度で配置するように覆って取付けたネットとを備え、前記ネットには、前記固定枠体の中央を構成する基部と前記骨材部との間に、上方に向いて開放された開口孔が形成され、さらに該開口孔を覆う蓋体ネットを設けて、前記蓋体ネットは、その一端縁を前記基部に取付け、その他端縁に取付けた棒材を自由端として、固定枠体に対して可動枠体を開いた際に、ネット内の固定枠体と各骨材部と可動枠体とで囲まれた空間内に前記棒材を持ち上げてごみを収納可能とするとともに、前記可動枠体を閉じた際に、固定枠体の内方に可動枠体および各骨材部を配置させて折り畳みされ、空間内に置かれたごみを収集可能としたものである。

【００１０】

また、第２の解決手段として、立設された筒状固定枠体と、該固定枠体の両端を橋絡する支持軸と、該支持軸に両端が軸支され、前記固定枠体に対して開閉可能な筒状可動枠体と、前記支持軸に両端が軸支された回動可能な複数の骨材部と、前記可動枠体が前記固定枠体に対して略直角となる位置にて張架し、且つ前記固定枠体と前記可動枠体との間に前記支持軸を軸中心にして前記各骨材部を所定の角度で配置するように覆って取付けたネットとを備え、前記固定枠体は、中央に設けた基部と、この基部に対して折曲げられた第１、第２の脚部とからなり、

前記ネットには、前記基部と前記骨材部との間に、上方に向いて開放された開口孔が形成され、さらに該開口孔を覆う蓋体ネットを設けて、前記蓋体ネットの一端縁を前記基部に取付け、その他端縁を自由端として、前記第１、第２の脚部には、台座部をそれぞれ取付けて使用する場合と、地面に穿設されたガード用穴部に差し込んで使用する場合との両方に使用できるように、前記支持軸を軸支する孔部を少なくとも２つそれぞれ形成してなり、前記固定枠体に対して前記可動枠体を開いた際に、前記ネット内の前記固定枠体と前記各骨材部と前記可動枠体とで囲まれた空間内にごみを収納可能とするとともに、前記可動枠体を閉じた際に、前記固定枠体の内方に前記可動枠体および前記各骨材部を配置させて折り畳みされ、前記空間内に置かれた前記ごみを収集可能としたことを特徴とするごみ収納装置。

【００１１】

固定枠体は、筒状からなる。

【００１２】

【発明の実施の形態】

本発明の第１の実施形態である折り畳み式のごみ収納装置１０を図１乃至図８に基づいて以下に説明する。

図１乃至図３に示すように、ごみ収納装置１０は、逆Ｕ字状をした筒状の固定枠体１２と、この固定枠体１２の内方側に配置された逆Ｕ字状の筒状の可動枠体１４と、剛性を有する金属線材からなる複数の逆Ｕ字状またはコ字状をした第１、第２の骨材部２４、２６と、上記固定枠体１２、可動枠体１４および第１、第２の骨材部２４，２６のそれぞれの両端側を橋絡する一本の金属製の支持軸１８と、から主に構成されている。

【００１３】

上記固定枠体１２は、ステンレスやアルミニウム、あるいは比重の軽い防錆を施した金属製の筒状をした細長いパイプからなり、中央に設けた基部１２ａと、この基部１２ａに対してその両端からそれぞれ直角（図１の下方方向）に折曲げられた第１の脚部（一端部）

１２ｂ、第２の脚部（他端部）１２ｃとから構成されている。
さらに、第１、第２の脚部１２ｂ、１２ｃには、対向する内方の側壁部分に支持軸用の孔部１２ｅと、外方側の側壁に後述する台座部１３を取付けるためのネジ孔１２ｈと、背面側の側壁に取付孔１２ｇとがそれぞれ形成されている。
さらに、第１、第２の脚部１２ｂ、１２ｃには、各取付孔１２ｇに第１、第２の脚部１２ｂ、１２ｃ間の幅を一定にする補強部材１５がねじなどで取付け固定されている。
【００１４】
図２に示すように、上記可動枠体１４は、ステンレス、アルミニウムあるいは比重の軽い、防錆を施した金属製の筒状をしたパイプからなり、中央に設けた基部１４ａと、この基部１４ａに対してその両端からそれぞれ直角（図２の左斜め上方）に折曲げられた第１の折り曲げ部（一端部）１４ｂ、第２の折り曲げ部（他端部）１４ｃとから構成されている。
さらに、第１、第２の折り曲げ部１４ｂ、１４ｃは、対向する側壁に貫通孔１４ｅがそれぞれ形成され、各貫通孔１４ｅを介して支持軸１８に軸支されている。
なお、固定枠体１２の基部１２ａには、手で握りやすい形状をした樹脂製の取っ手部２０（図８（ａ），８（ｂ）参照）が取付け固定され、この取っ手部２０が固定枠体１２と可動枠体１４の各基部１２ａ、１４ａを一体に仮止めするようになっている。
そして、ごみ収納装置１０は、持ち運ぶ際にこの取っ手部２０を持って運搬しやすい形状になっている。
【００１５】
図１に示すように、第１、第２骨材部２４，２６は、剛性を有する金属製の線材を逆Ｕ字状またはコ字状に折り曲げて形成され、それぞれの先端がワッシャ形状となるように折り曲げした軸受け部２４ａ、２６ａを有している。
そして、第１、第２の骨材部２４，２６は、その両端が固定枠体１２と可動枠体１４の各端部間、すなわち一端部１２ｂ、１４ｂの間、他端部１２ｃ、１４ｃの間に位置されて、それぞれ軸支する一本の支持軸１８に、それぞれの軸受部２４ａ、２６ａ（図１参照）を通して順次回転可能に取付け支持されるようになっている。
そして、第１、第２の骨材部２４、２６は、可動枠体１４が固定枠体１２に対して開く際には、後述するネット３０によって支持軸１８を軸中心にして所定の角度をもって配置され、また閉じられた際には固定枠体１２と可動枠体１４との間に第１、第２の骨材部２４、２６は、ネット３０と共に折り畳まれるようになっている。
【００１６】
上記可動枠体１４は、支持軸１８を中心に開閉できるようになっていて、可動枠体１４が開放される際に、固定枠体１２に対して約９０度の角度で開き、第１、第２の骨材部２４、２６で３等分するようにネット３０がごみ収納装置１０全体を覆うように取付けられている。
【００１７】
台座部１３は、上記固定枠体１２および可動枠体１４と同じ金属製からなる逆Ｔ字状をしていて、平板状のベースプレート１３ａと、このベースプレート１３ａの中央に一体に立設したパイプ状の支柱部１３ｂとからなる。
支柱部１３ｂには、その側壁の一部を上下方向に切り欠いた２つの長溝１３ｃが形成されている。
そして、台座部１３が固定枠体１２の両端にそれぞれ挿着して、ねじをネジ孔１２ｈ内に螺入して取り付けられるようになっている。
【００１８】
図７に示すように、ネット３０は、ステンレスなどの網目の細かい金網製からなる。なお、このネット３０は、網目の細かいポリプロピレンなどの樹脂製であってもよい。
そして、ネット３０には、固定枠体１２の基部１２ａと第１の骨材部２４との間に矩形状をした開口孔３０ａが形成されて、この開口孔３０ａからごみが入れられるようになっている。このとき、ネット３０は可動枠体１４が固定枠体１２に対して略直角となる位置に

て張架するようになっている。さらにその開口孔３０ａを覆う蓋体ネット３５が上記基部１２ａから第１の骨材部２４に向けて垂れるように基部１２ａに取付け固定されている。ネット３０は、その四方向の周辺に帯状に布製のテープ３１が取付けられて形成されている。

このテープ３１には、ハトメ状をした取付穴３０ａが所定の位置に形成され、インシェナーロックなどの樹脂製の細長いひも３２で固定枠体１２、可動枠体１４に結び付けて取付け固定されるようになっている。

【００１９】

図６（ａ），（ｂ）に示すように、ネット３０の開口孔３０ａを覆い、開閉可能な矩形状をした蓋体ネット３５は、その基端縁を固定枠体１２の基部１２ａに取付けされ、その先端縁に金属製の丸い細長の棒材が取付けられて、この棒材の自重にて第２の骨材部２６側のネット３０部分を覆うようになっている。また可動枠体１４は、枠部分の内方にネット３０が取付けられておらず開口部分となって、後述するごみ回収時にごみだけをそのまま置いた状態にして可動枠体１４だけを支持軸１８を中心に持ち上げられるようになっている。

【００２０】

次に、ごみ収納装置１０の組立てを説明すると、先ず、固定枠体１２の内方側に可動枠体１４，第１、第２の骨材部２４，２６をそれぞれ位置させる。次に、支持軸１８を、可動枠体１４の第１、第２の折り曲げ部１４ｂ、１４ｃの貫通孔１４ｅ、さらに第１、第２の骨材部２４，２６の軸受け部２４ａ、２６ａに順次挿通させて、その支持軸１８の両端を固定枠体１２の各孔部１２ｅ内に軸支して、ネジで取付け固定する。

次に、固定枠体１２の取付孔１２ｇに補強部材１５の両端をネジなどで取り付け、固定枠体１２の第１、第２の脚部１２ｂ、１２ｃ間が広がるのを防いでいる。

なお、可動枠体１４の第１、第２の折り曲げ部１４ｂ、１４ｃ間は、可動枠体１４が金属製のパイプであり剛性を持たせてあるとともに、上記補強部材１５によって、その寸法が一定に保たれている。

【００２１】

次に、固定枠体１２及び第１、第２の骨材部２４，２６にネット３０をインシェナーロックなどのひも３２で結びつけて固定する。

次に、固定枠体１２の第１、第１の脚部１２ｂ、１２ｃの先端を台座部１３の支柱部１３ｂに嵌入し、ねじなどで支持軸１８を取付ける。このとき、長溝１３ｃ内には支持軸１８が配置される。

なお、このごみ収納装置１０の組立ては、必ずしも上述した順に限定されるものではなく、適宜その手順を変えて行われるようにしてもよい。

【００２２】

次に、このごみ収納装置１０を使用するための操作方法を図４乃至図６に基づいて以下に説明する。

先ず、図４及び図５に示すように、ごみ収納装置１０は、固定枠体１２及び可動枠体１４間に、第１、第２の骨材部２４、２６及びネット３０の蓋体ネット３５を挟んだ状態で可動枠体１４を閉じてほぼ同一平面上となるように折り畳まれた状態にある。

このとき、取っ手部２０が固定枠体１２の基部１２ａに取り付けられ、この取っ手部２０の一部を可動枠体１４の基部１４ａに嵌着して、固定枠体１２と可動枠体１４とを互いに係合（ロック）する。

【００２３】

次に、図６（ａ），（ｂ）および図８（ａ），（ｂ）に示すように、ごみ収納装置１０をごみ当番となった者やごみ捨て者等の操作者が使用するときには、固定枠体１２に取り付けた取っ手部２０を片手で押圧して固定枠体１２とロックしている可動枠体１４を離脱させ、そのロックを解除する。

次に、可動枠体１４及び第１、第２の骨材部２４、２６の自重を利用して、可動枠体１４の第１、第２の折り曲げ部１４ｂ、１４ｃ及び第１、第２の骨材部２４，２６の軸受け部

２４ａ、２４ｂを軸にしてネット３０を扇状に徐々に拡げて、可動枠体１４を固定枠体１２に対して約９０度の角度まで開いて、可動枠体１４を地面に当接させる。
このとき、固定枠体１２と可動枠体１４との間に第１、第２の骨材部２４，２６が支持軸１８を軸中心にして所定の間隔をもった拡がり角で拡がる。このとき、固定枠体１２の基部１２ａと第１の骨材部２４間で張架されたネット３０は、その上方の開口孔３０ａが蓋体ネット３５で覆われている。

【００２４】

次に、ごみ捨て者等は、一方の手にごみの入ったごみ袋を持った状態で、他方の手で蓋体ネット３５を片手で開けて、開口孔３０ａを外部に露出させ、この開口孔３０ａからごみ袋を挿入する。その後に、蓋体ネット３５によって元の開口孔３０ａを覆い、元の状態に戻す。

【００２５】

次に、ごみ収集者がごみ収納装置１０からごみを収集する操作方法を図４乃至図６（ａ），（ｂ）に基づいて以下に説明する。
先ず、図６（ａ），（ｂ）に示すように、ごみ収納装置１０は固定枠体１２に対して可動枠体１４が開いた状態にある。
ごみ収集者は、固定枠体１２に取付けられた取っ手部２０を片手で持ち上げる。次に、図４に示すように、可動枠体１４及び第１、第２の骨材部２４，２６を固定枠体１２の方に支持軸１８を中心に回動させる。
さらに、図４および図８（ａ）に示すように、固定枠体１２に設けた取っ手部２０に可動枠体１４の基部１４ａを嵌着させ係合させる。
このとき、取っ手部２０が確実に可動枠体１４に係合して、可動枠体１４が元の開いた状態に戻らなうようにロックされる。

【００２６】

このように構成されたごみ収納装置１０は、上方に開放された開口孔３０ａからごみを挿入できるので、無理な姿勢やかがんだ姿勢などせずに簡単にごみを挿入できるとともに、通常は蓋体ネット３５がネット３０の開口孔３０ａを覆っているので、収納したごみを外部から小動物などによって荒らされる心配がない。さらに、ごみ収納装置１０は、開口孔３０ａを除き、その周囲を囲む構造となっているので、ごみの入ったごみ袋を積み上げ重ねて収納できるので、収納体積を増やすことができる。

【００２７】

また、ごみ収集の際には、ごみ回収業者は、可動枠体１４を固定枠体１２に片手で閉じるだけでよく、積み上げられたごみ袋を楽に運ぶことができる。

【００２８】

また、各骨材部２４，２６が均等に配置されているので、ネット３０の型くずれを防止することができ、外観形状が維持され、長期間の使用にも耐えることができるので、ごみ収集所の景観を印象の良いものにすることができる。

【００２９】

また、ごみ収納装置１０は、固定枠体１２及び可動枠体１４をマグネシウム、アルミニウムなど、軽い金属を用いたパイプとしたことにより、軽量化が図られ、同じ形状の固定枠体１２と可動枠体１４が一体化し、しかも取っ手部２０がしっかり可動枠体１４を嵌着しているので誰でもが取っ手部２０を掴んで簡単に運搬することができる。

【００３０】

次に、第１の実施形態であるごみ収納装置１０の変形例としては、１枚の蓋体ネット３５の代わりに、２つの蓋体ネットに別けて、ごみ袋を開口孔３０ａから挿入する際に、片方の蓋体ネットのみを持ち上げるようにする。
これによって、ごみ収納装置１０が横方向に長いものであっても、簡単にごみ袋を開口孔３０ａから挿入することができる。

【００３１】

次に、本発明の第２の実施形態であるごみ収納装置５０を図９及び図１０に基づいて以下

に説明する。
なお、上記ごみ収納装置１０を構成する構成部材と同じものについては、同一符号を付して詳細な説明を省略する。
このごみ収納装置５０は、上述したごみ収納装置１０と比べて、固定枠体１２の第１、第２の脚体１２ｂ、１２ｃを長くして、公園などの車の進入を防ぐための逆Ｕ字状のガード１００の代わりに、取付けられるように構成したことを特徴としている。
【００３２】
図９に示すように、ごみ収納装置５０は、第１、第２の脚部１２ｂ、１２ｃの、支持軸１８を軸支する一対の孔部１２ｅより下方の長さを伸ばしている。これは、図１０に示すガード接地用に地面に穿設されたコンクリートの穴部１１０に差し込むためのものである。
なお、このときには、上述した台座部１３は用いられない。
ごみ収納装置５０は、支持軸１８を軸支する一対の貫通孔を上下方向に２箇所形成することにより、台座部１３を取付けて使用する場合と、ガード用穴部１１０に差し込んで使用する場合との両方に使用できるようにしても良い。よって、ごみ収納装置５０の用途範囲を広げることができる。
【００３３】
このように構成されたごみ収納装置５０は、公園内でイベントがあったときに大量のごみが発生するので、車の進入を防ぐガードの役目と、発生するごみを入れる役目とを兼用しており、便利である。
また、使用後には、ごみ収納装置５０を取っ手部２０を片手でもって簡単に運搬することができる。
ごみ収納装置５０の操作方法は、上述したごみ収納装置１０と同じである。
このように、ごみ収納装置５０は、可動枠体１４の開口を除いた全てをネット３０で覆われているので、構成をシンプルにできており、簡単に組み立てることができる。
【００３４】
このように構成されたごみ収納装置１０、５０は、ごみの収納体積を倍にして大きくするための固定枠体１２の基部１２ａを長くしてもよい。このことにより、よりたくさんのごみを収納することができる。
さらに、ネット３０をその幅方向に２つに分割するとともに、それに合わせてネット３０を覆う蓋体ネット３５も２つに別れるように構成する。そして、ごみを入れたごみ袋を入れる際に、片方のみの蓋体ネット３５を使用するので、蓋体ネット３５が開けやすく挿入しやすい。
【００３５】
なお、本実施形態で説明したごみ収納装置は１つの例示であって、これらの構成に限定されるものではなく、本発明の趣旨内で自由に構成できることはいうまでもない。
【００３６】
【発明の効果】
以上のように構成された本発明のごみ収納装置は、立設された逆Ｕ字状をした筒状の固定枠体と、該固定枠体の両端を橋絡する支持軸と、該支持軸に両端が軸支され、固定枠体に対して開閉可能な逆Ｕ字状をした筒状の可動枠体と、支持軸に両端が軸支された回動可能な複数の骨材部と、可動枠体が固定枠体に対して略直角となる位置にて張架し、且つ固定枠体と可動枠体との間に支持軸を軸中心にして各骨材部を所定の角度で配置するように覆って取付けたネットとを備え、ネットには、固定枠体の中央を構成する基部と骨材部との間に、上方に向いて開放された開口孔が形成され、さらに該開口孔を覆う蓋体ネットを設けて、蓋体ネットは、その一端縁を基部に取付け、その他端縁に取付けた棒材を自由端として、固定枠体に対して可動枠体を開いた際に、ネット内の固定枠体と各骨材部と可動枠体とで囲まれた空間内に棒材を持ち上げてごみを収納可能とするとともに、可動枠体を閉じた際に、固定枠体の内方に可動枠体および各骨材部を配置させて折り畳みされ、空間内に置かれたごみを収集可能としたことにより、ネット内にごみが確実に収納されているので、小動物に荒らされることがない。また、ごみを回収する際に、単に可動枠体を持ち

上げればよく、ごみ回収が容易に行えるので作業性を向上させることができる。また、軽量化が図られ、持ち運びが便利である。

【００３７】

また、ごみを出した際に、ごみ袋をもたない方の片手で蓋体ネットの棒材を簡単に持ち上げて外部に露出した開口孔からごみを簡単に挿入することができるので、従来のようにかがんだ姿勢でネット内にごみをいれる煩雑さがない。

【００３８】

また、固定枠体は、中央に設けた基部と、この基部に対して折曲げられた第１、第２の脚部とからなり、第１、第２の脚部には支持軸を軸支する孔部を少なくとも２つそれぞれ形成することにより、第１、第２の脚部の各端部に台座部をそれぞれ取付け可能であるとともに、地面に穿設された孔部内に嵌入可能としたことにより、単にごみ回収が容易に行えるだけでなく、支持軸を軸支する孔部より下方の長さを伸ばすだけで、固定枠体部分を公園などの車の進入を防ぐためのガード用にも使用することができ、共用化を図ることができる。特に、公園内でイベントがあったときに大量のごみが発生するので、便利である。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の全体斜視図である。

【図２】本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の要部拡大斜視図である。

【図３】本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の要部拡大斜視図である。

【図４】本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の折り畳み時の概略斜視図である。

【図５】図４における、本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の正面図である。

【図６】図６（ａ）は、本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の使用時の概略斜視図である。図６（ｂ）は、図６（ａ）の要部拡大図である。

【図７】本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置のネット部分の要部拡大斜視図である。

【図８】図８（ａ），８（ｂ）は、本発明の第１の実施形態であるごみ収納装置の取っ手部部分の要部拡大斜視図である。

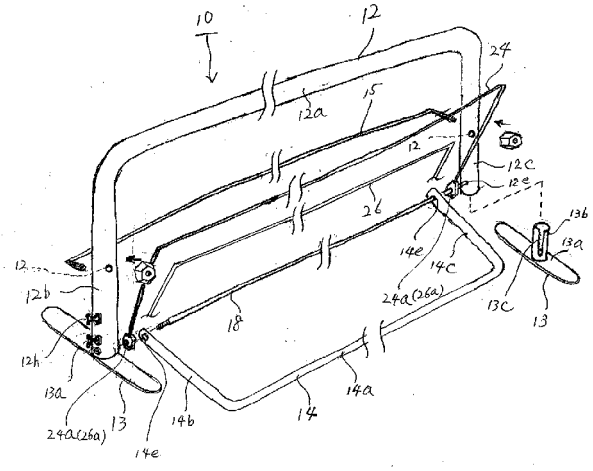
【図９】本発明の第２の実施形態であるごみ収納装置の概略斜視図である。

【図１０】本発明の第２の実施形態であるごみ収納装置の使用を説明するための説明図である。

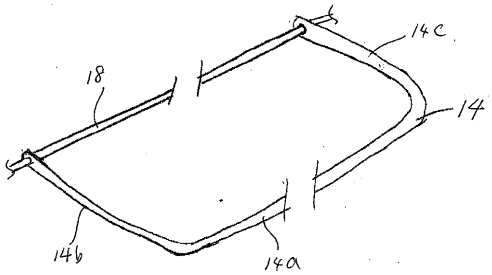
【符号の説明】

１０、５０　ごみ収納装置
１２　固定枠体
１２ａ　基部
１３　台座部
１４　可動枠体
２０　取っ手部
２４　骨材部（第１の骨材部）
２６　骨材部（第２の骨材部）
３０　ネット
３０ａ　開口孔
３５　蓋体ネット

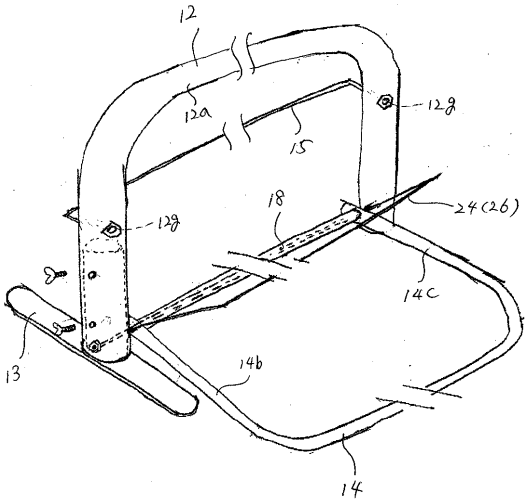
【図１】



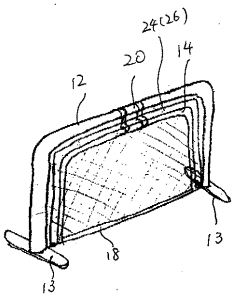
【図２】



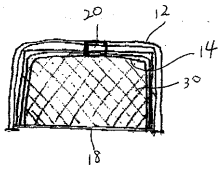
【図３】



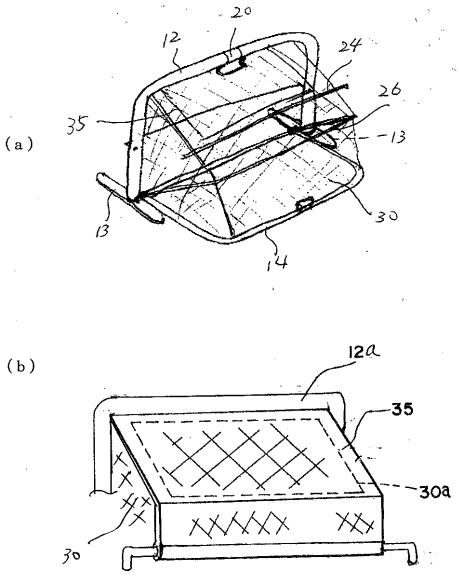
【図４】



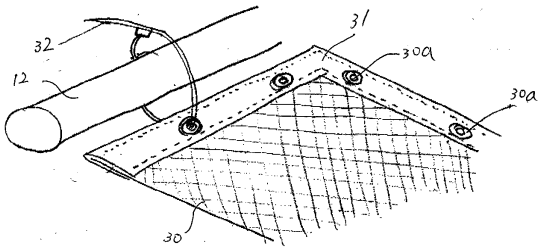
【図５】



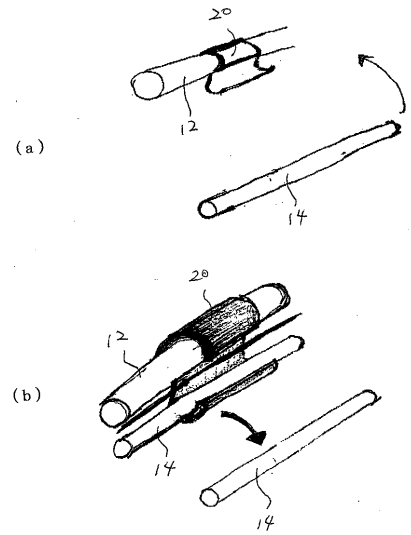
【図６】



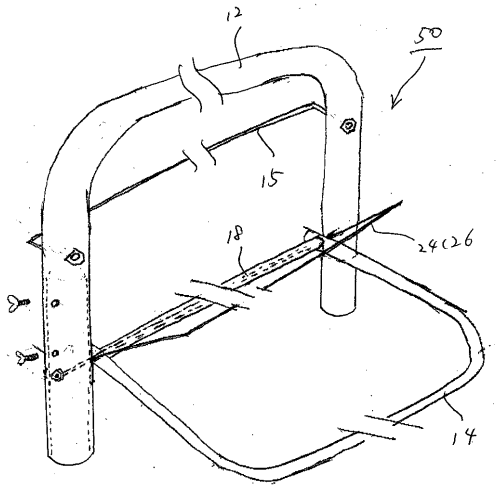
【図７】



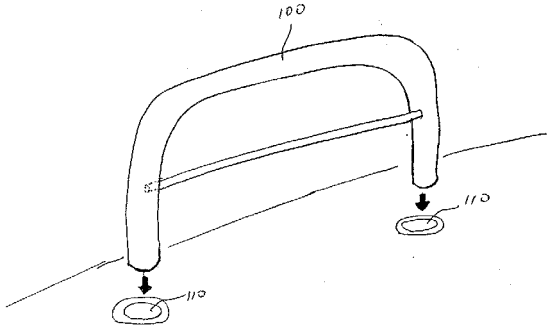
【図８】



【図９】



【図１０】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開２０００－２８９８０３（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－３３８３０５（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３０１５７１３（ＪＰ，Ｕ）
特開平１１－２０８８０２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65F 1/16